

1 学校自己評価

I 評価結果

別紙による「令和7年度の具体的な学校経営目標・計画」の最終評価

II 分析・改善方法

① 生徒募集について

本年度は次年度からの教育課程・系列変更とフレックス制開始に係る広報を図るとともに、より一層の多様化に対応できる体制の充実を進め、生徒募集を行った。中学校との密な連携や、教育支援組織との連携、また中学校生徒保護者からの個別の進学相談等にも応じた。

(達成状況) 入学予定者数120名(定員充足)

<特別入試96名、フレックス制24名>

※2月入試で定員が充足したため、3月の一般入試および第2次募集は実施せず。

(前年比較) 令和7年度新入生117名、R6年度新入生113名、

② 多様化対応の組織、仕組みづくり

多様化対応の学校体制に改善。特に不登校傾向、配慮の必要な生徒に対する学習支援、自立支援等を行い、社会的・職業的に自立させる学校経営を目指した。

- ・発達支持的生徒指導の浸透(年15回程度の研修等)
- ・福祉的な進路への対応(保護者対象進路相談会の実施等)
- ・生徒の主体的な活動の促進(学校祭、校則検討委員会等)
- ・教育相談体制等の改善(通級指導の実施、教育相談室(本校名称「学校生活サポートルーム」)の充実、担任による学校設定科目「SST」の指導、支援会議の改善、支援リストの活用等)
- ・ICT等を活用した学習活動の推進(アプリケーション活用の推進等)

(達成状況)

長期欠席者数・不登校者数・退学者数の3か年の状況

年度	長期欠席者数(人) / 全校生徒数(出現率)	不登校者数(人) / 全校生徒数(出現率)	退学者数(人) / 全校生徒数(出現率)
R7	47/306(15.4%)	21/306(6.9%)	12/306(3.9%)
R6	41/253(16.2%)	33/253(13.0%)	6/253(2.4%)
R5	40/214(18.7%)	23/214(10.7%)	9/214(4.2%)

別添 1 (様式)

意識調査 (向学校度) の重要質問の結果

→昨年度より最肯定の回答率が高まっている。

	R6_5月調査		R7_5月調査		R7_7月調査		R7_11月調査
学校が楽しい	47% (77%)	→	48% (80%)	→	53% (84%)	→	47% (84%)
みんなで何かをするのは楽しい	58% (83%)	→	57% (85%)	→	57% (85%)	→	58% (87%)
授業に主体的に取り組んでいる	45% (86%)	→	44% (88%)	→	51% (89%)	→	50% (88%)
授業がよくわかる	32% (80%)	→	34% (80%)	→	41% (85%)	→	37% (83%)

※数値は最肯定の回答率 (カッコ内は最肯定と肯定の合計)

同僚性の高い職場づくり

教職員が安心して勤務でき、信頼される学校を目指すとともに、人材育成基本方針に即して教員一人ひとりのスキルアップができる同僚性の高い職場づくりを目指した。

- ・教員への積極的な声かけや面談等の実施
- ・教員それぞれの得意を尊重する風土を醸成
- ・働き方改革の実行
- ・不祥事を出さない職場風土づくり

(達成状況)「本校で働くことにやりがいを感じている」肯定回答62%(前年度71%で-9%)

異動してきた教員の戸惑いや教員研修が多いことについて一部教員の指摘もあるが、本校教員にとっては年度が変わる毎にマインドセットの研修が大切である。前期調査で肯定回答58%(前年度前期より-16ポイント)であり、年間を通じて対話の多い研修の成果もあり、後期調査では、前期調査と比べて4ポイント上昇し、職場の同僚性や仕事のやりがいに関して改善がみられ、職員室での教員の心理的安全性も保たれている。来年度以降も教職員の日常の意思疎通を強化し、さらに風通しの良い関係性を維持していきたい。

2 学校関係者評価委員名 (学校運営協議会委員)

出射 弘貴 岡山北商工会本部 (支援1課長)
 大内 巖 (有) スコレー (代表取締役)
 大治 国利 高尾工業株式会社岡山事業所 (管理課長)
 大中 大介 PTA会長
 塩見 健治 岡山市立御津公民館 (館長)
 杉原 雅夫 金川地区自治会 (会長)
 田中 将生 岡山北商工会 (御津地区代表理事)
 武田 祥憲 岡山市立御津中学校 (校長)
 中西 康美 岡山県青少年相談員
 中田 智志 岡山市北区役所御津支所 (支所長)
 安信 治雄 元御津郡御津町長 (本校同窓会役員)

3 学校関係者評価

【成果】

- ・地域を愛してくれている感じがする。生徒が段々明るくなっている。
- ・地域とのいざこざが少なくなっている。子どもの自主性が育っている感じ。教員が変わったから生徒が変わったと強く思う。
- ・中学校では、確実に御津高校に行きたいという子が増えた。かつては、敬遠されるような学校だったが、御津高の良さが広がっている感覚を十分伺うことができる。
- ・見学（高雄工業）に来る生徒は、挨拶がよくできて優しい感じで、好印象の子が多い。毎年のように来ていただいているので、これからもよろしくお願ひしたい。最初はできないことが多いが、いろんなことを吸収してよく頑張っている
- ・中学校では、全体的にやんちゃな生徒が少なくなっている。そして、学力も低くなっている。御津高校もやんちゃな生徒が少なくなっている感じがする。
- ・限られた時間の中で自分の意見を表現するプレゼンの場が増えた社会であり、最近の若者はプレゼン慣れしていて、資料作成も上手であると感じている。ルネス学発表会のような機会を設けて、これからも続けてほしい。

【今後への要望】

- ・ルネス学について、地域の方に、現状と今後の方向性を説明してほしい。
- ・辛抱強さが身につけていない若者が多い。障害から逃げてしまう。仕事は何でも良いが、そこで人の役に立つことが大事。誰かのためにやる能力と、何かに躓いたときに我慢する力を育ててほしい。
- ・御津エリアの環境問題（PFAS 関連）を探究するのもよいのではないか。
- ・「見通し」が必要な生徒が多いのであれば、色々な経験をすることで見通せるようになることを考える。まずはコミュニケーションが大事であり、当たり前のコミュニケーション（おはよう、さようなら、ありがとう、返事等）ができるようになることで、地域からの生徒に対する印象や言葉がけが変わり、それらが生徒の自己肯定感につながったり地域からの依頼も増えてきたりする。
- ・勉強が得意でなくても、何かに頑張れる生徒であってほしい。
- ・親の背中を見て、同じような職業観になるのではないか。
- ・分からないと諦めるのではなく、分からないことを分からないと言って、友達と教え合ったり、助け合ったりする事が必要なのではないか。相談する力を育てたい。そこから光が見えてくるのではないか。

4 来年度の重点取組

(1) 「学校が楽しい」と思える生徒の育成（生徒が行きたいと思える学校づくり）

- ・行きたくなる学校の基となる、わかる、できるようになる授業づくり
- ・良好な人間関係ができる学級経営と学習集団づくり
- ・寄り添い支援する教員姿勢と教育相談

(2) 「これでいいのか」と常に自問する生徒の育成

- ・自分の今を常に問う姿勢、思考を大切にする人づくり 管理から自律へ
- ・目標、夢を掲げ、努力する姿勢を応援し続ける

(3) 自分のよさに気づき長所を伸ばそうと努力する生徒の育成

- ・自分のよさに気づくことができる授業と特別活動
- ・生徒の長所に気づかせ伸ばすことのできる進路ガイダンス

(4) 同僚性を大切にする職場風土

- ・それぞれのキャリアやスキルを尊重する風土
- ・令和型の学校作りに向かい学ぶ姿勢を大切にする風土